

2026. 2
Vol. 10

コロくま

colony kumamoto

障害福祉サービス事業

熊本福祉工場
熊本コロニー作業所
巨過園
グループホームきずな
放課後等デイサービスあした

社会福祉法人 熊本県コロニー協会 熊本市西区二本木3丁目12番37号 TEL：096-353-1291 FAX：096-351-4303 ホームページ：https://www.colony-k.com/

情報誌『コロくま』送付のご案内

令和8年も2月となり、春の兆しを感じる頃となりました。遅ればせながら、皆様本年もどうぞよろしくお願いいたします。さて、物価高騰をはじめとする社会経済環境等による厳しい事業運営が続く中で、皆様からのご支援・ご協力に対しまして、改めて感謝申し上げます。

本年も障害者の社会参加と自立を促進するため、「開拓者の心」「働く喜び」「可能性の追求」「連帯と協力」「豊かな社会」という基本理念を元に、喜びはみんなで分かち合い、苦しいことや困難なことは助け合う精神を共有し、全職員・従業員が協力し創意工夫を重ね事業運営にあたって参りたいと考えております。

引き続き、就労支援事業・福祉事業とも、皆様のご支援を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

社会福祉法人 熊本県コロニー協会
理事長 大島武文

グループホーム きずな 定員28名

印刷係からグループホームへ

— 新たなやりがいを見つけて —

GHサービス管理責任者 三山 和博

長年在籍していた印刷係から障がい者グループホームへと異動し、早くも一年が経ちました。A型事業所でサービス管理責任者を務めた経験はありましたが、障がい福祉分野におけるグループホームでの支援は初めてであり、異動当初は知識や経験の不足から不安を感じていたことを覚えています。

現在は、グループホームのサービス管理責任者として、入居者の皆さんが自分らしく安心して生活できるよう、支援計画の作成や日々の状況確認を行いながら支援に携わっています。戸惑いの連続であった一年目ではありましたが、日々の経験を重ねる中で少しずつ自信も芽生え、この仕事に大きなやりがいを感じるようになりました。

業務を進めるにあたっては、法人の方針や現場への理解を踏まえ、理事長より適切な助言をいただいています。その支えがあることで、安心して支援に取り組むことができます。

支援の最前線に立っているのは、世話人の皆さんや相談支援員の方々です。食事や掃除など日常生活の支援を丁寧に行われている姿には、常に頭が下がる思いです。また、相談支援員の方々は入居者の思いに寄り添いながら、「本当に必要な支援とは何か」を共に考えてくださっています。多職種との連携を通じて、私自身の視野も大きく広がりました。

医療面では、訪問看護師の方々が定期的な健康チェックを行ってくださり、入居者の皆さんだけでなく、スタッフにとっても安心できる支援体制が整っています。多くの入居者の方が就労支援を受けながら働いており、職場の支援者の方々と連携することで、生活面と就労面の両方から支援を行っています。働くことを通じて自信を取り戻し、社会とのつながりを実感されていく姿を見るたびに、支援の意義を強く感じています。

また、ご家族との信頼関係も欠かせません。定期的な面談を通じて情報共有を行い、ご家族の思いを支援に反映しています。ご家族からいただく温かいお言葉が、日々の大きな励みとなっています。

私は主に日中支援を担当していますが、夜間や休日の当直・日直スタッフとも連携しながら、安定した支援体制の構築に努めています。無理のない働き方ができていることで生活のリズムも整い、落ち着いた気持ちで入居者の皆さんと向き合うことができます。

今年度より新たに始まった地域連携推進会議についても、地域の方々との話し合いを重ねることで、親しまれ、偏見のない、開かれたグループホームづくりにつなげていきたいと考えています。

異動当初は不安も多かった福祉の仕事ですが、今では私にとって大きな生きがいとなっています。今後もチームの仲間やご家族の皆さまと力を合わせ、入居者の皆さんが安心して暮らせるグループホームづくりに努めてまいります。

成人を迎えて



僕が成人を迎えて、まず一番に思ったことは、「もう子どもじゃないんだな」ということです。これからは社会人として、自分の言動や行動に責任を持たなければいけないし、大人としての自覚をしっかり持ちたいと思いました。今までよりも、まわりの人に見られていることを意識して行動していく必要があると感じています。

成人前の自分を振り返ってみると、正直、反省することがたくさんあります。作業中に台車の上に足をのせてしまうなど、危険なことをしてしまったこともありましたが、まわりの雰囲気にならされて、つい大きな声を出して騒いでしまうこともよくありました。そのたびに職員の方から注意を受けていました。悪いことだと頭ではわかっていたつもりでも、本当の意味で理解できていなかったと思います。わからないことがあっても、恥ずかしくて質問できず、わかったふりをしてしまったこともありました。

ですが最近は、成人前と比べて少しずつ変わってきたと感じています。自分のことだけでなく、まわりの人が困っていないかを考えるようになり、声をかけたり、手伝ったりできる場面が増えてきました。以前は言われてから動くことが多かったですが、今は自分から動こうと意識できるようになってきたと思います。

成人を迎えた今は、そうした自分を変えていきたいと思っています。これからは、何か行動を起こす前に一度立ち止まり、「これは危なくないかな」「まわりに迷惑をかけないかな」と考えてから動くようにしたいです。また、物事を後回しにしたり、人に任せてしまったりする自分の癖も直していきたいです。人の話を最後までしっかり聞き、わからないことはそのままにせず、理解できるまで質問をしていきたいと思っています。

人との関わり方についても、これまでより気をつけていきたいです。ついラフな言葉遣いになってしまうことがありますが、社会人として適切な敬語を使い、相手の立場を考えた話し方ができるようになりたいです。その一方で、僕の長所である明るさや、初対面の人とも積極的に関わるところは、これからも大切にしていきたいと思っています。

最後に、成人を迎えるこのタイミングで、自分自身を見つめ直すことができ本当に良かったです。ここまで来られたのは、家族をはじめ、職員の方々や一緒に頑張ってきた仲間が、いつも僕を支えてくれたおかげだと感じています。これからは、「大人になったな」「成長したな」と思ってもらえるように、一つ一つ努力していきます。今後も応援をよろしくお願いいたします。本当にありがとうございました。

竹田 唯人



活動報告

早いもので2月に入り立春を迎えました。

みんな寒さに負けず元気に過ごしています。

今年も元気で楽しい居場所作りを提供できるように努めて参ります。

- 7月
- ・クッキー作り…旦過園の定番クッキー。みんなで生地を作るところから行いました。
 - ・フルーツポンチ作り…季節のフルーツと缶詰を使い包丁を使う練習をしました。
 - ・音楽会…元音楽の先生による音楽鑑賞をしました。みんなが知っている歌を合唱して心をひとつにしました。
 - ・歯磨き指導…染色液を使用して磨き残しを確認し念入りに磨きました。
 - ・かき氷作り…あらかじめ蜜を水で薄めて凍らせて削りました。暑さの中、少し涼を感じる事が出来ました。
 - ・九州農政局見学…毎年恒例となっている農政局の見学。今年はペーパークラフトでおせち料理を作りました。その他、箸や缶バッジを作りました。色んな体験をさせてもらい、沢山のお土産をいただきました。
 - ・お抹茶体験…今回は道具だけ揃え、以前ならったことを自分たちで行いました。

- 8月
- ・ボタニーペインティング…植物の葉に自由に色付けをするという、創造性あふれる創作を利用者のお母様に教えていただきました。素敵なしおりが出来ました。
 - ・マフィン作り…とても簡単なのに外はサクッと中はしっとりとても美味しく出来ました。
 - ・パステルアート…画用紙に水玉模様を描いたリールカの型にそれぞれに好きな色で描きました。優しい色合いに皆も癒されていました。元利用者のお母様に教えていただきました。
 - ・職場体験…B型事業所（旦過園）はさみこみの体験をさせてもらいました。

- 10月
- ・ハロウィン…皆で仮装して風船運びゲームをして楽しみました。

- 12月
- ・クリスマス会…旦過園のみなさんとお菓子食い大会とビンゴ大会をしました。

これからも子供たちにとって楽しめるものを計画したいと思っています。





クリスマス会

令和7年12月23日。旦過園では、利用者の皆さんに季節の行事を楽しんでいただくため、クリスマス会を開催しました。日々の業務に追われる大変忙しい時期ではありましたが、大きな仕事もひと段落つき、職員同士で相談しながら何とか時間を調整して準備を進めることができました。普段はなかなかイベントを開催する機会が少ないため、今回は利用者さんに少しでも楽しい時間を過ごしてもらいたいという思いで企画しました。

今年のクリスマス会では、お菓子の早食い対決とビンゴゲームを行いました。早食い対決で使用したお菓子は、かっぱえびせんです。1人につき20本ずつ配り、全員一斉に食べ始めるというルールで行いました。なぜかっぱえびせんを選んだのかというと、昔はこのような遊びをよくしていたという話があり、懐かしさを感じてもらえるのではないかと考えたからです。実際に始めてみると、急いで次々と口に運ぶ人もいれば、早食い対決であることをあまり意識せず、一本一本味わいながらゆっくり食べる人もおり、それぞれの個性が見られました。食べ終わったら手を挙げるというルールでしたが、1位から4位まではほとんど同時に手が挙がり、会場は大いに盛り上がりました。早く食べ終わった利用者さんからは、「おいしかったけれど、まだ食べ足りない」という声も聞かれ、楽しんでもらった様子が伝わってきました。

続いて行ったビンゴゲームでは、今回は参加者全員分の景品を用意しました。景品には帽子やマフラー、入浴剤など実用的なものを揃え、ビンゴになった順番に好きなものを選んでもらいました。景品があることで利用者さんのテンションも高く、番号が呼ばれるたびに歓声が上がるなど、終始にぎやかな雰囲気でした。仕事の都合で遅れて来られた利用者さんも、ビンゴゲームには間に合い、結果的にほぼ全員が参加することができました。忙しい中ではありましたが、利用者さんの笑顔を見ることができ、職員にとっても心に残るクリスマス会となりました。



ゆず茶



6年前に購入した「柚子」の木。3年前に協会の中庭に植え替えました。

昨年、やっと100個ほどの実をつけました。

収穫の際は、「トゲに気を付けて」と伝えていましたが「痛い、痛い」と言いながら目の前にある柚子を必死に採ってくれていました。



旦過園の柚子は、「本柚子」という品種で小ぶりで香りが良いのが特徴です。「身土不二」（暮らしている土地でその季節毎に穫れるものを食することが最も体に良い）という考え方からいっても夏バテや風邪の予防に役立つ飲み物なんですね。

また肌の健康をサポートするゆずの注目成分は、「ビタミンC」と「ヘスペリジン」です。ゆずに含まれるビタミンCは、メラニン色素の元となるアミノ酸物質が作られるのを抑制し、しみやそばかすの原因となるメラニン色素が沈着しないようにするはたらきがあります。その上、種にも栄養素があるなんて、お得感いっぱいです。

次回の販売は、年末年始です。

